

時の動き

追悼 翁長雄志沖縄県知事

沖縄大学地域研究所特別研究員

毛利 孝雄



沖縄はどこまで過酷な試練を強いられ続けるのか。強大な日米政府と対峙し続けた翁長知事の4年間、その重圧・孤独・責任を考えると、どんな言葉もその軽さに耐えられない気がする。

沖縄大学在学中だった2013年1月、オスプレイ配備撤回を求める上京行動に沖大生6人で参加した。団長は当時那覇市長の翁長さんだった。パレードの沿道から沖縄代表団に浴びせられる「売国奴」「日本から出て行け」の罵声、一方で、その向こう側を何事もなかったように無関心に通り過ぎていく数多の人たち。沖縄の民意とのあ

まりの落差に衝撃を受けたことを後に語っている。

翌年の11月、県知事となった翁長さんには、沖縄の民意を鼓舞するとともに、つねに「本土」の民意への問いかけがあった。このことを、「本土」の私たちはあらためて深く刻印しなければならぬ。

翁長知事が埋立承認の「撤回」を表明した7月28日、山城博治さんは辺野古ゲート前でのインタビューの最後をこう結んでいる。それは、翁長知事への応援メッセージでもあったはず。

「人生は永遠じゃない。その限定さ

れた時間を最大限有効に生きたい。今の私自身の想いは過去から引き継がれて来たものの1コマでしかなく、この1コマ1コマの連続が歴史を作っていくのだと思えば、今の時代に責任を持つてと言われている感じがする。」

享年67歳。同時代を生きたひとりとして、「オール沖縄」の成立とその時代を身近に接し得たことを誇りに思うとともに、心から感謝したい。そして、自らの生の残りを励ます。

(2018年8月9日記)

(もりり たかお)

◆時の動き



8. 11 沖縄県民大会一降りしきる雨の中「翁長知事ありがとうございます」のボードを掲げる（那覇市奥武山陸上競技場一撮影・全日本写真連盟沖縄支部 小出由美さん）



沖縄県民大会に呼応する8. 11 首都圏大行動一翁長知事の遺影も掲げられた（東京東池袋中央公園一撮影・田原博さん）



沖縄県民大会に呼応する8. 11 首都圏大行動一「知事、撤回表明」の号外を掲げ遺志継承を誓う（東京東池袋中央公園一撮影・田原博さん）